

第78回北日本病害虫研究発表会

場所 青森県青森市 「リンクモア平安閣市民ホール（青森市民ホール）」

◆研究発表会日程◆

受付は2月20日（木）、21（金）ともに
9:30 からホール前で行います（開場は 8:50）。

口頭発表（ホール）

2月20日（木）	10:00～10:50	総 会
	11:00～12:00	一般講演
	12:00～13:20	休 憩
	13:20～16:20	一般講演
	16:30～17:30	特別講演
2月21日（金）	9:50～12:30	一般講演

ポスター発表（会議室2、3）

2月20日（木） 11:00～16:20
2月21日（金） 9:50～12:00

懇親会（ウェディングプラザ アラスカ）

2月20日（木） 18:30～20:30（開場は 18:00）

会 務 連 絡

- 一般講演の時間は10分（発表8分、質疑応答2分）とします（1鈴7分、2鈴8分、3鈴10分）。
- 講演用ファイル（ファイル名：番号_氏名）は、受付で動作を確認の上、下記の時間までに提出してください。
2月20日午前講演：2月20日 10:30 まで
2月20日午後講演：2月20日 12:30 まで
2月21日午前講演：2月20日 16:20 まで
- 講演終了者は次の講演の座長をお願いいたします。ただし、講演番号1、22の座長は事務局が務めます。
- ポスター発表の方は各自説明時間（30分程度）を明示してください。
- プログラムどおり運営したいと思いますのでご協力をお願いいたします。
- 講演・ポスターの写真・ビデオ等による撮影ならびに許可のない講演内容の引用などは一切ご遠慮ください。

北日本病害虫研究会

令和7年（2025年）2月

第1日目(2月20日)

開 会

一 般 講 演 (11:00~16:20) ○印 発表者

1. 青森県におけるイネばか苗病菌のプロクロラズ剤に対する感受性低下-----○花岡朋絵¹・岩間俊太¹ 1) 青森産技セ農林総研
2. プール育苗の水位の違いがばか苗病発生に与える影響-----○宮野法近¹ 1) 新潟農総研作物研
3. 福島県における BLASTAM 利用開始時期の検討-----○前原 瞳¹・山田真孝¹ 1) 福島農総セ
4. 無落水移植における葉いもちに対する移植時育苗箱施用の防除効果(第2報)
-----○高橋真央¹・齋藤隆明¹・保坂美海¹ 1) 秋田農試
5. いもち病圃場抵抗性遺伝子 *Pi39*, *Pb1* を保有する品種系統におけるいもち病の発病特性
-----○菅原隆介¹・森谷真紀子^{1,2}・小関彩恵子¹ 1) 山形農総研セ・2) 現在: 山形県農林水産部

休 憩 (12:00~13:20)

6. 高密度播種苗を用いた疎植栽培における葉いもちと紋枯病に対する各種育苗箱施用剤の防除効果
-----○保坂美海¹・齋藤隆明¹・藤井直哉¹・渡辺恭平^{1,2}・高橋真央¹ 1) 秋田農試・2) 現在: 秋田防除所
7. 宮城県におけるバリダマイシン液剤によるイネ紋枯病の防除
-----○狐塚慶子¹・小黑まゆ¹・宮野法近^{1,2} 1) 宮城古川農試・2) 現在: 新潟農総研作物研
8. 宮城県のクモヘリカメムシに対する水田雑草ノビエの影響-----○小野 亨¹・楠原弘己¹ 1) 宮城古川農試
9. 2022~2024 年の秋田県におけるアカヒゲホソミドリカスミカメおよびアカスジカスミカメのジノテフランに対する感受性と
アカスジカスミカメ LD₅₀ 値の季節的推移-----○高橋良知¹ 1) 秋田農試
10. 省力的な害虫防除資材「くん煙剤」の作用特性~テルスターゲットの貯穀害虫に対する効果を例として~
-----○天野睦大¹・山本敦司¹ 1) 日本曹達(株)
11. 液状亜リン酸肥料の葉面散布によるダイズ茎疫病に対する被害軽減効果
-----○渡辺恭平^{1,2}・齋藤隆明¹・高橋真央¹・保坂美海¹ 1) 秋田農試・2) 現在: 秋田防除所
12. 新規殺菌剤フセキ®フロアブルのダイズ紫斑病に対する防除効果-----○中野孝明¹・倉橋 真¹ 1) 住友化学(株)
13. 新規殺菌剤フセキ®フロアブルおよびムケツ®DX のテンサイ褐斑病防除体系評価
-----○倉橋 真¹・安田典史¹・森永幹治¹・池田 信¹ 1) 住友化学(株)
14. カスガマイシン耐性テンサイ褐斑病菌の環境適応度の解析
-----○松尾広信¹・松尾英子¹・竹内 崇¹・小田一登²・佐藤悠子²・大竹 勝² 1) 北興化学工業(株)・2) 日本甜菜製糖(株)
15. 宮城県内で発生したイチゴ炭疽病の2種殺菌剤に対する耐性と菌種構成-----○格井晶吾¹・板橋 建¹ 1) 宮城農園研
16. ネギ葉枯病の黄色斑紋症状における重要防除時期の推定と効率的な防除方法の検討-----○藤 結宇¹ 1) 長野野花試
17. 転炉スラグを用いた土壌 pH 矯正の有無によるニンニク連作10作目の紅色根腐病の自然発生の比較
-----○岩間俊太¹ 1) 青森産技セ農林総研
18. 宮城県の施設栽培野菜におけるアブラムシ類に対する各種薬剤の殺虫効果
-----○坂本龍之介¹・村上理都子² 1) 宮城防除所・2) 農研機構植防研
19. 防虫ネットの目合いの違いがコナジラミ類2種の通過率に及ぼす影響
-----○大江高穂¹・駒形泰之¹・関根崇行¹・板橋 建¹・工藤詩織¹ 1) 宮城農園研
20. 秋田県の施設栽培トマトにおけるトマトキバガの発生長と被害状況の推移-----○蛭川泰成¹・高橋良知¹ 1) 秋田農試
21. ネギハモグリバエに対する茎葉散布剤の防除効果-----○鈴木敏男¹ 1) 岩手植防

特 別 講 演 (16:30~17:30)

「天敵の餌探索と害虫防除に関する研究」

下田 武志 博士

(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(NARO)東北農業研究センター)

第2日目(2月21日)

一 般 講 演 (9:50~12:30) ○印 発表者

22. 土壌消毒実施ほ場におけるトルコギキョウ立枯病菌の土壌深度別菌密度の推移
-----○渡邊秀明¹・穴戸邦明¹・堀越紀夫¹ 1) 福島農総セ
23. エラータム系デルフィニウムとシネンシス系デルフィニウムにおけるうどんこ病菌の病原性の違い
-----○藤根 統¹ 1) 道総研花野セ
24. ナシ花腐細菌病の花腐れ症状に対する多目的防災網設置の防除効果
-----○長谷川拓也¹・宮嶋一郎¹・根津 潔¹ 1) 新潟農総研園研セ
25. オウトウ褐色せん孔病菌 (*Mycosphaerella cerasella*) の培地上での分生子形成
-----○後藤新一¹・遠藤宏幸¹ 1) 山形農総研セ園芸研
26. 山形県におけるオウトウに寄生するウメシロカイガラムシの発生活長-----○柏浦侑喜¹ 1) 山形農総研セ園芸研
27. 山形県におけるカキのフジコナカイガラムシに対する春期防除薬剤と散布時期
-----○五十嵐美穂¹・寒河江康太¹・大場史也²・上野 清³ 1) 山形防除所庄内・2) 山形酒田農普・3) 山形庄内農振
28. ハウス栽培オウトウのナミハダニに対するミヤコカブリダニパック製剤の効果と放出時期 第2報
-----○佐藤唯風¹・高部真典¹・伊藤慎一^{1,2} 1) 山形防除所・2) 現在：西村山普及課
29. 醸造用ブドウにおける果樹カメムシ類の吸汁が品質に及ぼす影響
-----○下間悠士¹・佐藤三佳子² 1) 道総研北見農試・2) 道総研中央農試
30. ラズベリー栽培におけるショウジョウバエ類の発生と物理的防除-----○佐々木正剛¹ 1) 福島植防飯坂
31. 福島県におけるナシヒメシクイの発生活長および各種殺虫剤の残効性-----○阿部初紀¹・高橋佳大¹ 1) 福島農総セ果樹研
32. ツヤハダゴマダラカミキリの街路樹における発生活長およびリンゴに対する寄生リスク調査(第3報)
-----○高橋佳大¹ 1) 福島農総セ果樹研
33. りんご園地の周辺環境を考慮したナミハダニの殺ダニ剤抵抗性リスク評価(宮城県の事例)
-----○山本敦司^{1,5}・関根崇行²・伊藤博祐³・土井 誠^{4,5}
1) 日本曹達(株)・2) 宮城農園研・3) 宮城防除所・4) 静岡農林技研・5) 農林害虫研/殺虫剤抵抗性 TF
34. 青森県のりんご園におけるハマキムシ類の寄生蜂とその寄生率-----○児玉 洋¹ 1) 日本農薬(株)
35. 殺虫剤散布状況の変化によるリンゴ試験圃場での主要チョウ目害虫の発生状況
-----○屋良佳緒利¹・岸本英成¹ 1) 農研機構植防研

閉 会

ポスター発表（2月20～21日）

第1日目（11:00～16:20）

第2日目（9:50～12:00）

○印 発表者

P 1. イネいもち病の発生リスク予測・薬剤散布適期連絡システムの開発

-----○太田光祐¹・井之口 曜¹・芦澤武人¹ 1) 農研機構植防研

P 2. 紋枯病の発病が山形県主要3品種の収量・品質に及ぼす影響

-----○小関彩恵子¹・森谷真紀子^{1,2}・菅原隆介¹ 1) 山形農総研セ・2) 現在：山形県農林水産部

P 3. 宮城県の堆肥を利用したもみ枯細菌病抑制効果および作業性の検討

-----○小黑まゆ¹・狐塚慶子¹・高橋英樹²・宮下脩平²・宮野法近^{1,3}

1) 宮城古川農試・2) 東北大院農・3) 現在：新潟農総研作物研

P 4. 高温による登熟後期のアカスジカスミカメ加害リスク増加と予測-----○横田 誠¹・山本優里¹ 1) 山形農総研セ

P 5. 福島県中地方におけるクモヘリカメムシの発生域拡大-----○松木伸浩¹・前原 瞳¹ 1) 福島農総セ

P 6. 水稻高密度播種苗栽培における育苗箱施用剤のイネミズゾウムシに対する施用量の検討

-----○對馬佑介¹・石岡将樹¹ 1) 青森産技セ農林総研

P 7. 岩手県で発生したコムギなまぐさ黒穂病について-----○八桁直輝¹・岩館康哉¹・西村穂花^{1,2} 1) 岩手農研セ・2) 札幌市

P 8. 専用撮影装置と画像分類AIを利用したジャガイモYウイルス発病葉の簡易診断法-----○山名利一¹ 1) 道総研中央農試

P 9. 新潟県におけるダイズカメムシ類の発生活長と薬剤防除法-----○岩田大介¹・高橋和大¹ 1) 新潟農総研作物研

P 10. 岩手県における土壌pH 7.5 矯正に要する転炉スラグ投入量の簡易推定法の実用性

-----○中村太紀¹・武藤和夫²・岡本 淳² 1) 岩手農研セ県北・2) ミネックス(株)

P 11. 青森県で発生した *Burkholderia cepacia* complex によるネギ腐敗病

-----○近藤 亨¹・達 瑞枝² 1) 青森産技セ野菜研・2) 農研機構東北農研

P 12. 東北地域の春まきタマネギにおけるりん茎腐敗率に及ぼす品種・含水率・窒素含有率の影響

-----○川邑菜々美¹・山内大輔¹・日浦聡子¹・山口千仁¹ 1) 農研機構東北農研

P 13. アスパラガス露地栽培および伏せ込み促成栽培におけるさび症状の発生推移と発生要因

-----○園田高広¹・小野隆裕²・児玉不二雄³・田中文夫³ 1) 酪農学園大農食環境学群・2) 北海道立美幌高校・3) 北植防

P 14. 秋田県のアスパラガス半促成栽培における斑点性病害（褐斑病，斑点病）に対する薬剤防除体系の検討

-----○齋藤隆明¹・保坂未海¹・渡辺恭平^{1,2} 1) 秋田農試・2) 現在：秋田防除所

P 15. キュウリモザイクウイルス伝染源としてのツユクサ-----○中村茂雄¹・宮下竜樹¹・田尻 郁¹・長谷川亜紀¹ 1) 宮城大食産

P 16. 夏秋栽培トマトにおけるヒラズハナアザミウマによる果実の白ぶくれ症被害果率の品種間差異

-----○村上珠利¹ 1) 岩手農研セ

P 17. 秋田県における侵入2年目のトマトキバガの発生状況

-----○佐々木 明¹・三戸 智¹・今野かおり¹・新山徳光¹ 1) 秋田防除所

P 18. 夏秋いちごのアザミウマ類防除に主眼を置いた IPM 体系の検討

-----○関根崇行¹・鈴木俊矢¹・大江高穂¹・駒形泰之¹・菊地友佳里¹ 1) 宮城農園研

P 19. 遺伝子解析によるヒラタアブ類幼虫からの寄生蜂の検出

-----○板橋 建¹・大江高穂¹・駒形泰之¹・関根崇行¹ 1) 宮城農園研

P 20. ニンニクにおけるネギアザミウマの発生生態と防除法の検討-----○清川 僚¹ 1) 青森産技セ野菜研

P 21. 福島県における暗渠または簡易暗渠排水施工によるモモ胴枯細菌病（急性枯死症）の発病軽減効果

-----南 春菜¹・○日下部翔平²・湯田美菜子⁴・七海隆之³・半澤勝拓¹・小松健太郎²・藤田剛輝⁵

1) 福島農総セ・2) 福島農総セ果樹研・3) 元福島農総セ果樹研・4) 福島県中農林田村普及所・5) 福島防除所

P 22. リンゴ黒星病および褐斑病の発生期間における UV-B の抑制効果

-----○戸田 武¹・高橋 剛²・佐藤 裕³ 1) 秋田県大生資・2) (合) ピポット・3) 秋田果樹試

P 23. 福島県におけるリンゴ褐斑病の開花期の感染確認と二次感染期の TPN 水和剤の防除効果
-----○小松健太郎¹・日下部翔平¹ 1) 福島農総セ果樹研

P 24. 秋田県内で 2024 年に採集されたリンゴ褐斑病菌のテブコナゾール感受性-----○佐藤 裕¹・阿部紀之¹ 1) 秋田果樹試

P 25. 岩手県におけるリンゴ炭疽病の多発要因の解析-----○佐藤 優¹・猫塚修一² 1) 岩手防除所・2) 岩手農研セ

P 26. リンゴコカクモンハマキに対するジアミド系殺虫剤の長期残効性と薬剤抵抗性の発達
-----○石栗陽一¹ 1) 青森産技セりんご研

P 27. 果樹におけるハスモンヨトウの発生と薬剤の効果-----○中村 淳¹・高橋佳大¹・阿部初紀¹ 1) 福島農総セ果樹研

P 28. 福島県中通り地方における 2024 年の果樹カメムシ類の多発生とスギ・ヒノキ花粉飛散数を用いた越冬世代の発生量予測
-----○藤田剛輝¹・瀧田誠一郎¹ 1) 福島防除所